

平成 29 年 1 0 月
独立行政法人大学入試センター

平成 29 年 1 1 月に実施する
大学入学共通テスト導入に向けた試行調査（プレテスト）の趣旨について

1. 大学入学共通テストの実施と試行調査（プレテスト）の位置付け

(1) 高大接続改革の進展

- 長年、高校と大学とが連携して一体的に改善を図ることが課題とされてきた高大接続改革について、現在、例えば次のような具体的な改善策が、関係者の努力と連携により着実に進められているところです。

〔大学教育の改善に向けて〕三つの方針（①卒業認定・学位授与方針、②教育課程の編成・実施方針、③入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー））に基づく大学教育の質的転換

〔高校教育の改善に向けて〕高等学校学習指導要領の改訂を見据えた教育課程の見直し、学習・指導方法の改善

〔大学入学者選抜の改善に向けて〕大学入学共通テストの導入、アドミッション・ポリシーに基づく個別大学の入学者選抜の改革

- これらの改善は、高校あるいは大学において「何をどのように学び、何ができるようになるのか」を明確にしながらそれぞれの教育の充実を図るとともに、接続段階で実施される入学者選抜を通じてどのような学習の成果を評価するのかを明確にすることで、高校と大学における学びの効果的な接続を図るために行われているものです。大学入学共通テストについても、このテストのみの在り方ではなく、高大接続改革の全体像の中でその意義や役割を捉えていただければと思います。

(2) 大学入学共通テストの準備状況

- 本年 7 月に文部科学省が「大学入学共通テスト実施方針」を公表しました。大学入試センター（以下「センター」という。）では、この実施方針に基づき以下のような準備を進めています。

① 記述式問題の導入

- ・ 本年5月に、国語と数学Ⅰにおける記述式のモデル問題例を公表。あわせてモニター調査（平成28年11月、平成29年2～3月に実施）の結果を公表し、適切な設問数や時間数を示すとともに、今後の試行調査（プレテスト¹。本ペーパーでは以下単に「試行調査」という。）を通じて検証すべき事項等を整理。
- ・ センターに設置された新テスト実施企画委員会において、試行調査の実施方法や検証事項等を議論。大学及び高校の教員等から構成される科目別の問題調査研究部会において問題の在り方等について検討し、試行調査の問題を作成。
- ・ 記述式に対応した解答用紙の読み取りや解答データの授受、採点体制の確保等に関し、平成29年度及び平成30年度（予定）の試行調査において必要な検証を行いつつ、平成32年度の大学入学共通テスト実施に向けシステムを整備。

② マーク式問題の工夫・改善

- ・ 本年7月に、国語と数学Ⅰ・数学Aにおけるマーク式のモデル問題例を公表。あわせてモニター調査（平成29年2～3月実施）の結果を公表し、今後の試行調査を通じて検証すべき事項等を整理。
- ・ センターに設置された新テスト実施企画委員会において、試行調査の実施方法や検証事項等を議論。大学及び高校の教員等から構成される科目別の問題調査研究部会において問題の在り方等について検討し、試行調査の問題を作成。

③ 英語の4技能評価

- ・ 大学入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用を支援するため、センターに「英語4技能大学入試成績提供システム（仮称）」を設け、一定の参加要件を満たすことが確認された資格・検定試験について、受検生から申出のあった回の成績を一元的に集約し、要請のあった大学等に対して提供できるようにする方向で準備中。現在、参加要件や確認手続等について調整中。また、システムの整備等に向け準備中。

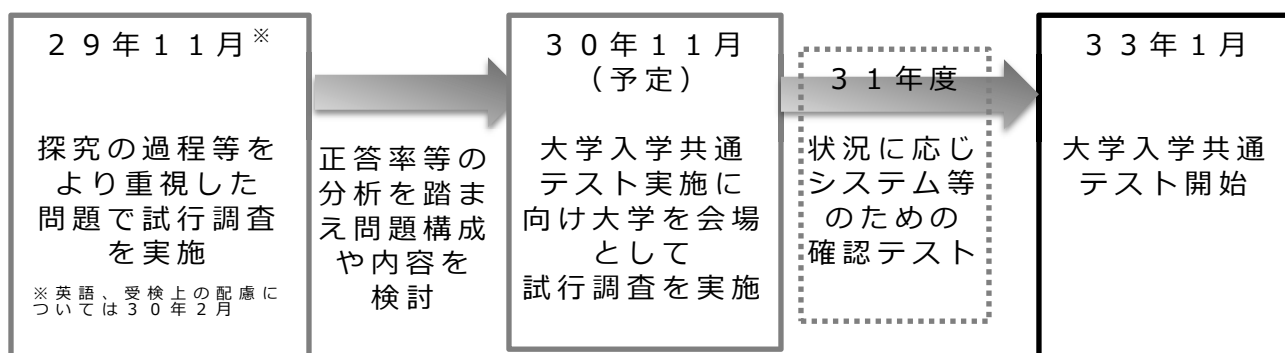
¹ 「大学入学共通テスト実施方針」においては「プレテスト」と表記されているが、よりその趣旨が明確になるよう「試行調査（プレテスト）」の名称に改めたところ。

- ・ 「大学入学共通テスト実施方針」に沿って、資格・検定試験の実施・活用状況等を検証しつつ、平成35年度まではセンターが作問する英語試験も実施予定。この英語試験に関しては、平成30年2月に試行調査を実施し必要な検証を行う予定。

(3) 大学入学共通テストと試行調査の関係

- 新しいテストの問題構成や内容等を決定していくにあたっては、あらかじめ、探究の過程等をより重視した新たなねらいの問題を出題した場合の正答率や解答の傾向等を分析しておく必要があります。こうした分析を行うためには、地域バランス等にも配慮しながら分析に必要な規模のデータを集める必要があるため、今回、全国の高校等にご協力いただき実施するものです。
- 試行調査で出題される問題は、あくまでも検証のためのものであり、今回の問題構成や内容が必ずしもそのまま平成32年度からの大学入学共通テストに受け継がれるものではないという点にご留意ください。実際の大学入学共通テストの問題構成や内容等がどのようなものになるかは、今回の試行調査の結果等を踏まえ今後さらに検討されるものです。

【イメージ】



(4) 現在の高校生にとっての試行調査の意義

- 大学入学共通テストが開始される平成33年1月は今の高校生にとってまだ先の話かもしれませんが、各大学の入学者選抜では、既に新たなねらいの問題の導入も進み始めています。今回の試行調査は、今の高校生にとっても、深い理解を伴った知識や思考力、判断力、表現力を問うことをより重視した問題で、自分の力を試すことができるものです。
- 生徒には、緊張せず、腕試しのつもりで挑戦してみるよう促してください。

(5) 試行調査の実施期日・科目

- 今回の試行調査の実施期日や実施科目等は別添の通りです。

2. 試行調査の問題のねらいと形式

(1) 問題のねらい

- 高校教育を通じて、大学教育の基礎力となる知識及び技能や思考力、判断力、表現力がどの程度身に付いたかを問うことをねらいとしています。高等学校学習指導要領において育成を目指す資質・能力に準拠し、知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力を発揮して解くことが求められる問題を重視して出題しています。

(2) 記述式の概要

- 国語と数学 I・数学 A において、記述式の問題を出題します。それぞれ小問 3 問が出題され、解答時間はマーク式も含めて、国語が 100 分（現行の大学入試センター試験では 80 分）、数学 I・数学 A が 70 分（同 60 分）に延長されます。

(3) マーク式問題の工夫・改善の概要

- マーク式の問題においても、知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力を発揮して解くことが求められる問題を重視した出題の工夫・改善がなされています。したがって、試行調査の問題の構成や内容は従来の大学入試センター試験とは異なります。
- また、今回の試行調査では新たな出題形式として、当てはまる選択肢を全て選択される問題や、解答が前問の解答と連動する問題、解なしの選択肢を解答させる問題なども出題されます。
- 繰り返しになりますが、これはあくまで試行調査の構成や内容であり、必ずしもそのまま大学入学共通テストに受け継がれるものではないことにご留意ください。
- なお、国語と数学 I・数学 A 以外の科目の解答時間は、従来の大学入試センター試験の時間と同じです。

3. 各教科・科目の問題の構成や内容で留意すべき点

- 今回の試行調査の問題の構成や内容に関し、教科・科目ごとの留意点は以下の通りです。高校により、実施していただく科目は異なります。

(1) 国語

- 近代以降の文章（論理的な文章、文学的な文章、実用的な文章）、古典（古文、漢文）といった題材を対象とした、言語活動の過程を重視した問題で試行調査を実施し、大学入学共通テストの問題の構成や内容の在り方を検証することとしています。

言語を手がかりとしながら、与えられた情報を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面等に応じた文章を書いたりすることなどが求められます。大問ごとに固定化した分野から一つの題材で問題を作成するのではなく、分野を越えて題材を組み合わせたり、同一分野において複数の題材を組み合わせたりする問題も含まれます。

- 記述式の問題は、小問3問で構成される大問1問を出題します。小問3問の解答字数については、20字程度、40字程度、80～120字程度をそれぞれ1問ずつ出題し、問題の内容や正答の条件の設定、段階別評価の在り方等に関し検証を行います。

(2) 数学（数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B）

- 数学的な問題解決の過程を重視した問題で試行調査を実施し、大学入学共通テストの問題の構成や内容の在り方を検証することとしています。

事象の数量等に着眼して数学的な問題を見いだすことや、目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順に従って数学的に処理することなどが求められます。日常の事象や、数学のよさを実感できる題材、受検生が既知ではないものも含めた数学の事実、定理等を既知の知識等を活用しながら導くことのできるような題材等も取り扱うこととしています。

- 記述式の問題は、「数学Ⅰ」において設定することとし、マーク式問題と混在させた形で小問3問を出題します。数式を記述する問題、または問題解決のための方略を短文で記述する問題を出題し、問題の内容や正答の条件の設定等に関し検証を行います。

(3) 地理歴史

(地理 (地理 B))

- 地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視した問題で試行調査を実施し、大学入学共通テストの問題の構成や内容の在り方を検証することとしています。

事象の空間的な規則性を分析して地域性を捉えることや、地域の変容や構造について考え、地域の課題を理解し将来像について構想していくことが求められます。系統地理と地誌の両分野からのアプローチを意識した問題も含まれます。

(歴史 (世界史 B、日本史 B))

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視した問題で試行調査を実施し、大学入学共通テストの問題の構成や内容の在り方を検証することとしています。

用語に関する知識ではなく、事象の意味や意義、特色や相互の関連等に関する理解が求められます。教科書等で扱われていない初見の資料についても、そこから得られた情報と授業で学んだ知識を活用しながら、仮説を立てたり、歴史的事象の展開を考察したりすることができるかどうかを問う問題や、時代や地域によらず「歴史の見方」のようなテーマを設定した問題、時間軸を長く取った時代を貫く問題なども含まれます。

(4) 公民 (現代社会)

- 現代社会の課題や人間としての在り方生き方等について多面的・多角的に考察する過程を重視した問題で試行調査を実施し、大学入学共通テストの問題の構成や内容の在り方を検証することとしています。

文章や資料をしっかりと読み解きながら、重要な概念や理論等を活用して考察することが求められます。身近な社会的事象に重要な概念や理論等を適用して考察する問題や、各種の統計など多様な資料を読み解き、さまざまな立場から考察する問題などが含まれます。

(5) 理科 (物理、化学、生物、地学)

- 科学的な探究の過程を重視した問題で試行調査を実施し、大学入学共通テストの問題の構成や内容の在り方を検証することとしています。

自然の事象の中から本質的な情報を見だし、課題の解決に向けて主体的に考察・推論することが求められます。教科書等では扱われておらず受検生にとって既知ではない資料等を分析的、総合的に考察すること

ができるかという、深い理解を伴う知識や思考力等を問う問題や、仮説を検証する過程で、数的処理を伴う思考力等が求められる問題なども含まれます。

(6) 今回実施されない科目等について

- 外国語科については、平成30年2月に英語の試行調査を実施し、「読むこと」「聞くこと」の能力をバランスよく把握するための問題の在り方について検証しつつ、英語の資格・検定試験活用に関する方針も踏まえながら、外国語科全体の方向性を検討していきます。平成30年2月の試行調査の筆記（リーディング、マーク式）については、必要な情報を整理する力や談話構成を理解する力、要約する力等を、リスニングについては、複数の情報を聞いて判断したり、議論を聞いて内容を把握したりする力等を評価することをねらいとした作問を工夫し、問題の構成や内容、音声回数等について検証を行う予定です。
- その他の教科・科目等については、センターに設置された大学入学共通テスト実施企画委員会及び関係の科目別ワーキンググループにおいて、大学入学共通テストに向けて検証が必要な事項を精査し、平成30年11月（予定）の試行調査において必要な検証を行います。
- 受検上の配慮については、大学入学共通テスト実施企画委員会において合理的な配慮の考え方を整理するとともに、2.(1)を踏まえて配慮の種別に対する必要な検討を行います。平成30年2月には、点字解答について試行調査を実施します。その他の配慮事項についても、大学入試センター試験における実施状況や大学入学共通テストに向けた議論の状況を踏まえつつ、必要に応じ実施を検討する予定です。

4. 実施後の問題冊子の扱いや成績提供等について

- 今回の試行調査の問題内容は、全体の正答率等の速報値とともに12月上旬に公表予定です。試行試験実施後は各校で問題冊子を回収し、11月中は校内で厳重に保管してください。生徒には、11月中は問題の内容について他校の生徒に伝えたり SNS で情報を流したりすることのないよう、指導をお願いします。
- 個人の成績等については、年内をめどに速報値をお伝えし、結果全体は年度内のなるべく早い段階で送らせていただきます。今回は試行調査であり配点は行っておりませんので、問題ごとの正誤や正答率等を成績

として送らせていただくことになる予定です。なお、個人や学校ごとの成績は公表しません。

- 本調査の結果等については、センター及びセンターと共同研究を行う公的機関等において、大学入学共通テストに関する調査・研究の資料として利用されます。調査・研究結果の発表に際しては個人が特定できないように処理されます。

5. その他ご留意いただきたいこと

- 試行調査の実施上の留意点等については、別途配布される実施マニュアルや監督マニュアルをご覧ください。
- 記述式問題の自己採点について、手順の参考となるものを示してほしいとの声を多くいただきました。自己採点は本来、各受検生が自主的に行っているものであり、センターが手順等を示す性格のものではありませんが、大学入学共通テストで新たに記述式問題が導入される予定であることを踏まえ、新しい制度に向けた準備を支援するための措置として、参考となる動画や資料を用意させていただきました。国語、数学の試行調査において自己採点を行う際に受検生に見せるなど、ご活用をお願いします。



平成29年11月試行調査（プレテスト）実施概要（平成29年10月現在）

①趣旨	改善されたマークシート式問題及び、記述式問題における条件設定や採点基準、採点体制、採点期間等について検証を行うため、試行調査（プレテスト）を実施する。	
②実施期日	平成29年11月13～24日内で試行調査（プレテスト）参加高校が任意の日時で実施※1	
③実施科目、 解答時間	a 記述式＋マークシート式 →国語、数学Ⅰ・数学A 国語は100分、数学Ⅰ・数学Aは70分を予定。 その他アンケート、自己採点を実施予定	b マークシート式 →世界史B、日本史B、地理B、現代社会、 数学Ⅱ・数学B、物理、化学、生物、地学 以上の科目の解答時間は60分を予定。 その他アンケートを実施予定
④実施規模	参加校：約1,900校／全高校数約5,000校※2 参加人数：国語 約68,000人 数学Ⅰ・数学A 約57,000人	参加校：約1,900校／全高校数約5,000校※2 参加人数：1科目当たり約1,000人～約17,000人
⑤受検対象者	高校2年生以上	原則高校3年生
⑥実施会場	試行調査（プレテスト）に参加する各高校	
⑦監督者等	試行調査（プレテスト）に参加する各高校の教職員	

※1 平成30年2月に次の科目等について試行調査を実施する。

・英語（高校2年生以上対象）

・受検上の配慮（配慮事項について、大学入試センターの配慮事項実施企画部会等における議論を経た上で、特に点字問題について実施する予定。なお、その他の配慮事項についても、今後の検討状況を踏まえ、必要に応じ実施を検討する。）

※2 中等教育学校を含む



平成29年11月試行調査（プレテスト）都道府県別参加状況（平成29年10月現在）

地方	参加校数	参加人数
北海道地方	72校	6,266人
東北地方	150校	13,113人
関東地方	556校	58,472人
北陸・東海地方	374校	40,206人
近畿地方	292校	31,974人
中国・四国地方	212校	18,650人
九州・沖縄地方	233校	21,851人
合計	1,889校	190,532人

